

〈授業改善推進プラン 令和5年度第4学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学力調査の結果は、全国平均を若干下回っており、特に「文章を書く」の問題では全国平均57.0%に対し、正答が得られなかった。テスト全体を通して回答する際の時間配分が影響している可能性もある。回答の手順をあらかじめ伝えることも検討したい。令和4年度の学力調査における「文章を書く」の結果は、平均正答率20.8%、全国平均57.0%であることから、あまり改善されていないことが分かる。このことから、特に「文章を書く」ための力を付けることが、国語における課題である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の授業改善推進プランでは「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえる。」という課題が示されている。改善策として「音読練習はさまざまな手法で行い、飽きさせないように音読を繰り返すことで、内容の把握へとつなげる。」「音読劇を行うことで、文章から情景を思い浮かぶことができるようにする。」という2点が示されている。現在では施策の結果、示された課題については改善していると考えられる。新たに書くことについての課題が顕在化したため、以下に取り組みを記す。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の練習で新出漢字だけを書き続けたり、熟語のみを書き続けたりする練習ではなく文章を自分で考え、文章中に新出漢字を用いた熟語を取り入れて練習する。 詩や俳句、短歌などの短い文章を、折にふれて書く。 物語の感想文や説明文の要約、お礼の手紙や新聞の作成など、比較的長い文章を書く機会を数多く設定する。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各単元の新出漢字を用いて、文章を書くことを伴う活動を継続して行う。 ②新出漢字をノートに練習する際に短文を作成させる。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①完成した成果物から確認する。 ②ノートへの取り組みの様子から確認する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級全員が成果物を完成させ、学習発表会においても展示することができた。 また、結果的に、ほとんどの児童が単元テストにおいてB基準（正答率70%）以上を達成することができた点は成果である。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別指導なしに文章を完結させることが難しいことは課題である。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級内の児童の学力差が個人により大きな隔たりのある。全員が目標を達成するためには、個別指導が欠かせない。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>高学年として、自らの考えを表現し、発表できる児童。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第4学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和5年度の学力調査の結果は、全国平均をやや下回る結果となった。前学年で学習した「市の様子の移り変わり」（全国平均 52.4%に対し平均正答率 5.6%）に大きな課題が見られた。問題を分析すると、駅舎の時代による変遷、交通網の時代による変遷、自治体の合併による人口増加の変遷という本校児童にとって実生活を通じての感覚が乏しい分野が苦手であることが分かった。実生活から見えない状況を想像することは難しく、教科書だけでは、知識や技能は定着しないということが課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

- ・該当項目なし。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・教科書や地図帳と併せてインターネットで調べ学習等を行う。実生活を通じて理解することが難しい内容も、間接的に理解させる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①教科書で学習する内容の確実な定着とともに、地図帳とICTを併用してより深い学びを実現する。

<検証方法>

- ①単元テストにおける達成率。誤答の修正には地図帳及びICTを併用して調べさせる。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・都道府県クイズ等、ICTを併用した方策を行うことで自発的な興味関心を引き出すことができたことは成果である。また、学級のほとんどの児童が単元テストにおいてB基準（正答率70%）以上を達成することができた点は成果である。

<課題>

- ・個別の支援をせずに知識を蓄積することが難しいことは課題である。

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・教科書の内容に重ね合わせ、直接見聞を積み重ねることが肝要である。学級内の児童の学力差が個人により大きな隔たりがある。全員が目標を達成するためには、個別指導が欠かせない。

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿

- ・学習内容を相互につなぎ合わせ、学習問題に対して自分の考えを表現できる児童。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第4学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度の学力調査の結果は、全国平均を上回り、良好な状況であるといえる。一方で「長さ・重さ」（平均正答率50.0% 全国平均57.4%）といった単位を用いるものや、単位を換算する問題には課題がみられる。併せて令和4年度の学力調査における「長さ・重さ」の結果は、平均正答率57.4%、全国平均50.0%と同様の結果であることから、算数科における継続した課題であることが分かる。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度の授業改善推進プランでは「正確に基礎・基本的な計算を行う。」という課題が示されている。現在、基礎的計算については施策の結果、確実に改善している。継続的な基礎的計算の定着についての取組が必要である。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">問題に取りかかる際に、確かめや見直し、答えの見当を付けさせることを徹底させる。その上で基礎基本の定着を図る。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①単位の一覧表を教室に掲示し、長さ、重さ、かさなど、既習の単位について確かめさせる。</p> <p>授業はもちろん学校生活の中でも身の回りにある単位のついた表記を取り上げ、単位を換算する力や量感を育てる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストにおける達成率から見取る。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">方策実施の結果、学級のほとんどの児童が単元テストにおいてB基準（正答率70%）以上を達成することができた点は成果である。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">支援を必要とする児童に対する対応が課題である。単元それぞれの習熟は見いだせるものの、相互に関連していることを深く理解するには至っていない点は課題である。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">学級内の児童の学力差が個人により大きな隔たりがある。全員が目標を達成するためには、個別指導が欠かせない。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">課題に対して、既習事項との関連を見出し、諦めることなくねばり強く取り組む児童。	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第4学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学力調査の結果は、校内平均正答率が52.8%で、全国平均の63.0%に届かない状況である。特に、「太陽と地面のようす」の記述問題（校内平均正答率0% 全国平均正答率16.4%）、「電気の通り道」の記述問題（校内平均正答率0% 全国平均正答率18.4%）に課題が見られた。学習した知識を使って論理的に思考し、自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を高めることが、今後の課題である。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理的思考の土台となる基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。 各単元において、既習内容を生かして問題に対する予想を自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</p> <p>②問題に対する予想を自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</p> <p>②問題に対する予想を自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</p> <p>②問題に対する予想を自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させたことで、知識・技能分野、思考・判断・表現分野の評価がB基準以上になった点は成果である。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する児童に対して、一斉授業や実験の際に、個別指導する時間を十分確保できなかった点が課題である。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインを意識した授業。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>既習事項を生かして、自ら論理的に思考することができる児童。</p>			

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第4学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

令和5年度の「学びのスタンダード授業アンケート」において「授業が好き」と答えた児童は、A 84%、B 16%となっており音楽への関心が高い。「学習したことをわかっている」という項目についてはA 100%であった。昨年度も「授業が好き」はA 83%となっていた。しかし、「学習したことをわかっている」についてはA 66%であったが、今年度は上昇しているので、この1年間で学習に対する気持ちに変化があったようである。この意識を持続させられるよう工夫を凝らし、授業に取り組んでいきたい。

昨年度は器楽分野に課題があり、上手く出来なくてもよいので諦めずに最後まで取り組むことに重点を置いていた。しかし、今年度は音楽的な感性を働かせ、楽器の特徴を生かした音色で演奏できるよう器楽分野をさらに発展させていく。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容

正しい息の使い方と鍵盤ハーモニカを演奏することが課題となっており、その改善策として、短く切って演奏したり逆に息を長く伸ばしながら演奏したりする短いフレーズの練習にドリル的に取り組ませるとある。その改善策に取り組んだ結果、楽しく合奏する中で息を調整したりタンギングをしたりすることができるようになった。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

いい演奏をたくさん観たり、聴いたりする。その中で、姿勢や息づかいなどに注目し、この音色を出すにはどのようにすればいいのかを想像する。また、教師が良い見本、良くない見本を見せ、実際にまねをした上で、「わかる」から「できる」を体感させていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①授業内で実技の発表をさせる。

＜検証方法＞

①授業内での実技発表の分析。(他者からの意見)

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

・担任の先生の前でリコーダーの発表をするなど、人前で演奏することにより、ある程度の緊張感をもって取り組むことができた。また、消極的な言葉は言わないと授業内で約束をし、全員が前向きに取り組める環境をつくることができた。

＜課題＞

・一人一人に合った器楽活動をしていることが多かったため、リコーダー、鍵盤ハーモニカなど全員がある一定の技術のところまで達していないものもある。

5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

・消極的な言葉は言わないという意識はしているが、器楽分野に関しては、新しい課題が出てくるとあきらめそうになってしまうことがある。言葉がけのタイミングや内容を工夫する。

6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿

苦手なものにも自ら挑戦することができる児童。

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第4学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>・令和5年度1学期アンケートでは、「図画工作の授業が好きか」という項目に関して、6名中6名が「はい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関して、6名6名が「はい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いといえる。学習内容の確実な定着については、授業者と児童の認識に乖離があるため、改善を図る必要がある。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付く。</p> <p>【改善策】有名な作品や、他の児童の作品など、さまざまな例を掲示することで、想像を広げて造形遊びに取り組めるようにする。また、身近に自然物は多いが人工物は少ないため、ICTを活用し、さまざまな人工物を鑑賞する時間を設ける。</p> <p>【評価】立体に表す活動や造形遊びをする活動を豊かな発想力で楽しむことができている。絵に表す活動や鑑賞活動を通してよさを味わったり、自分の作品に生かしたりする場面が増やせるよう、題材のバランスを見ながら実施していく必要がある。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>・表現をありのままの自分の技能で楽しむ様子よりも、写実的な描写への憧れが芽生えながら思い通りにいかないことで悩む場面が多く見られるようになってきたため、多種多様な表現のよさも認めながら、自己肯定感を高められるような写実描写のコツを押さえた支援を適宜行っている。</p>	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>・イメージしたことと表現できることのギャップに悩む場面が多かったが、学年末の授業で自分と仲間の作品を連結して協力しながら完成させ、さらに他の児童が触って遊べる作品として展示したことで、自分の表現を認められる経験をして自信をつけたり、創造する喜びを味わったりすることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>・4月に赴任したばかりの中学校教員は小学校の指導経験がないため、4月の授業開始と同時並行で指導教諭もいない状況で児童の実態を確実に把握し、授業準備や教材研究をするのは容易ではないことと、予算を含む地域の特殊事情も踏まえると経験でカバーできない要素が多く、サポート体制がないことが課題。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・児童が表現や鑑賞の活動に取り組む中で、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培っていくためには、児童の実態に応じた弾力的な学習を展開していく必要がある。発達の特性に応じた題材を常に検討しながら、他教科の教員や学年担任とも連携して、それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けられるように指導計画を常に修正していくことが大切である。</p> <p>・授業における楽しさをはき違えないような規律づくりが必要であり、児童の実態に応じて学年担任との情報共有を密にしながら、けがや事故防止に努め、安全第一で授業を行う。</p>
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>イメージしたことを表現するために、粘り強く試行錯誤できる児童。</p>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第4学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">令和5年度の1学期授業評価アンケートでは、「体育科の授業が好き」「体育科の授業は分かりやすい」という項目に関して、ほとんどの児童が肯定的な回答である。令和5年度の体力テストにおいて、良好な記録の児童と記録が伸びていない児童が混在している。このことにより、児童によって体力差や技能に幅があると云える。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">令和3年度の授業改善推進プランでは「音楽に合わせて豊かに表現運動をすることができるようにする。」という課題が示されている。改善策として「ICTを活用し、各自の踊りを自身で確認することで、よりよい踊り方を習得させる。また、グループ活動を増やし、お互いに見合ったり、話し合ったりすることで、豊かな表現へとつなげる。」という点が示されている。令和5年度運動会では表現豊かに演目を演じることができ、施策が改善につながっていると考えられる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">実技に入る前の段階であらかじめ児童自身が要点を踏まえ取組ができるよう、動画教材などを用いて理解を促す。児童同士でお互いの動きを確認し話し合ったうえで、改善し、繰り返し取り組む。タブレット端末の動画撮影機能を用い、自らの動きを確認し、次の取り組みに生かす。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①動画教材、タブレット端末で撮影した自身の姿などを視聴し、要点を理解する。また、児童同士のアドバイスを踏まえた上で実技に取り組ませる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①わかったこと、考えたこと、気付いたことなど、取り組むうえでの視点を示した学習カードなどから確認する。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">楽しみながら、そして自らを客観視しながら視点をしぼって練習できるようにしたことで、積極的に実技に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">興味関心や意欲をもたせ、技能面を高めることはできた。児童によって周囲にアドバイスなどを伝え合う力に差があることは課題である。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">児童一人ひとりの技能を高める支援、思考力や判断力、表現力を互いに高め合えるような支援を継続して行うことが、特に留意すべき事項である。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">自己の技能を高めるとともに、児童互いがはげましあい、高め合えるような思考力・判断力・表現力を育む児童。	